

税・社会保障分科会

安心してらせる税・社会保障を考える

参加団体：48団体

参加者：73名

<分科会のまとめ>

前半は、格差社会の歪みを強く受けている方々ということで、平井正史さん（いわて青年ユニオン書記長）から「低所得・非正規雇用と重い公的負担に苦しむ青年の実態」について、倉橋光男さん（医療生協さいたま元理事）から「年金生活者の暮らし」について、鈴木芳美さん（浦安市在住）から「『自立』を支給制限の口実にしなさい」として、生活の実態報告をいただきました。3氏から、若年世代では非正規労働者が増えている中で、非正規雇用が続くと正社員になることが大変困難になっている実態や、高齢者の税・社会保険料の負担増が続いている実態、母子家庭の総収入が低い中で児童扶養手当が命綱になっている実態などについてコメントをいただきました。また、「図表の読み解き方を学ぶことが大切」として、分科会運営委員より資料集図表の説明を行いました。



後半は、飯田秀男さん（全大阪消団連）をコーディネーター、富山泰一さん（不公平な税制をただす会）をコメントーターに、生活実態報告をいただいた3氏も交えて、「税の再分配機能は、今どうなっているのか」「公平な負担とはどういうしくみなのか」といった論点について、パネルディスカッションを行いました。所得格差の拡大が続く中で高所得者や大企業への減税が続いていること、後期高齢者医療制度について、社会保障財源をめぐる現状、応能負担と応益負担、行政と市民の役割、といった幅広いテーマについて取り上げ、望ましい給付と負担のあり方について考えあいました。会場からは、「事業者の中でも中小事業者については、低収入に苦しむ層が増えている」「今後とも消費者運動と労働運動がネットワークを組んで、地域での学習などの取り組みを行っていくことが大切」といった意見が出されました。